



残暑お見舞い申し上げます

お盆号

平成十九年葉月

智恩寺役員表彰される

去る六月二十七日館山市安布里 源慶院様で第四十四回千葉県宗務所第十二教区の檀信徒総会が開かれました。席上、各寺院の役員表彰が行われ、當智恩寺からも加藤責任役員筆頭総代様と伊佐責任役員総代様が、長年の菩提寺役員としての功績が認められ、めでたく栄に輝きました。今後ますますの寺檀の橋渡しとしてご尽力をお願いするものであります。授賞おめでとうございました。



南房総白浜坐禅修行の旅

（前篇）

住職 奥村孝司

三か月ぶりの帰郷だった。

函館でお世話になっている異種異業の会「クラブ平成会」が智恩寺で坐禅をするため、前日の四月六日に準備を整えていた。

ペット霊園の社長を会長と称し、コンピューター会社の部長、設計士、旅行会社社長、設備会社営業所主任の五名が今回参加した。平生は十二〜五名の会員が集う会である。「タダの飲み友達」と云ってしまえばそれまでだが、四季を体を感じようと懇親の場を設けてきた。一応、私は副会長である。「なぜ智恩寺で坐禅なのか？とにかく坐禅がしてみたい、それも住職のお寺で！これも縁だ」

会長は云う「殺伐とした今、世知辛い世の中をちよつと離れて精神修養をしようじゃないか！」。三年越しの思いがここに実ったのである。

JR館山駅に彼らが降り立ったのは午後一時五十八分、お酒の影響もあってか賑やかにやってきた。

送迎の「グランドホテル太陽」のワゴン車でまずは史跡館山海軍航空隊赤山地下壕跡を見学。予定に無かったコースは送迎に当たってくれたM氏のお陰であった。歴史に精通していて房総のことならなんでもこい！といった感じ。初めて地下壕を魅かせていただいた。この地下壕、アメリカ軍の空襲が激しくなった太平洋戦争の終わりの頃、この赤山地下壕が館山海軍航空隊の防空壕として使われていたことは、壕内にある発電所跡や終戦間際にこの壕の中で実際に館山海軍航空隊の事務をおこなったという体験や、病院の施設があったことなどの証言からうかがい知ることができるようである。皆一生涯懸命M氏の案内に聞き入りながら隅々まで見入っていた。中には立ち入り禁止区域を強引に入って注意されたり、頭をぶつけたりして約二十分の間当時に浸った。

車は洲崎経由で白浜へと入っていく。海岸の景色に函館とは違った風景に一同、感慨深そうである。

午後三時五十分、宿泊先の「太陽」に到着した。

五十分程の休憩をして貰い、いざ智恩寺へ！（次号へつづく）

坐禅修行の場であり、心も静かになる

愚息、大本山永平寺にて只今修行中！

三月七日、永平寺の修行に入りました。大学生活から一転、一度は僧侶として通らなければならぬとは申せ、本人は下より独り旅僧姿でお山（永平寺）に上がってゆく後姿には、さすがに涙しました。その愚息（孝祐）より今に至って四通の手紙が届きました。語録にして紹介します。

● 厳しい修行をしていると自分って今、生きているんだな〜って感じます

● ついに朝課朝のお勤め（寝てしまい、下拭きかとおいきや説教くらいました

● 歌というものは不思議なもので辛いときなど勝手にながれてきて自分の気持ちを前に前に押ししてくれるものです

● 一言「お山は理不尽！」

